山形のすもも新品種 ブランド確立の軌跡

果樹農家の未来と町の活性化も目指す

土地柄・課題

西村山の大地から すもも誕生の物語

さがえ西村山農業協同組合すもも部会で部会長を務める渡辺誠一さんは、山形県におけるすもものブランドを確立した先駆者。親の代からの畑を受け継ぎ、就農してまもなく植えた50本のすもも品種「太陽」をもとに、先進地での修行をしながら、新品種「サンルージュ」を開発しました。

一般的にすもも生産者は早生から晩生まで多品種を植えており、一つの品種における旬は10日間ほど。それぞれの収穫に合わせて出荷しますが、それでもその収穫は6月末から8月末と、1年の間に2ヶ月間しか出荷できません。そんな中、サンルージュは9月末に実をつけ、従来のすもものの旬が過ぎた頃に、店頭に並べることができます。しかもその糖度はメロンよりも高い20度にもなるといいます。「すももは酸っぱい」という概念を覆したこの品種は、爆発的にヒットしました。

すもも栽培の推進に取り組んでいた、同農協管内では、このサンルージュの普及を受けて、生産者数は20年前の2倍に。平成25年には、管内3地区のすもも部会が合併して「さがえ西村山農業協同組合すもも部会」が発足しました。平成29年の会員数は150名となっています。

新品種の開発は進み、サンルージュを親に持つ4種類のすももが誕生。そのブランディングに向け動き出しました。

連携の経緯

最盛期中の出荷を支え、注目高まる珍品種も

すもものの実がなるのは、植え付けてから3年目。出荷量を確保できるようになるまでにはそこから何年もかかります。開発した4品種は、サンルージュの糖度の高さを引き継ぎつつ、それぞれ特徴の際立ったすももに。「赤李（あかり）」と「緑李（みどり）」は、8月中旬のお盆の時期に、「愛李（らぶりー）」は10月の品薄になる時期に出荷できる品種。これにより、すもも最盛期には部会内で出荷できる品種だけで完全に対応できるようになりました。「スーパーにも置いていただいていますから、旬の時期には切らさないで出荷したいと考えて開発してきました」と渡辺さんは話します。

そして、もう一つの品種「光李（ひかり）」は、サンルージュ系統の中から突然変異で生まれた、皮も実も黄色という黄金のすもも。「光李」は日持ちがよく、芳醇な香りが特徴。通常、黄色のすももは、時間が経つと赤色が入ったり、ぶつかるとすぐに変色してしまうものが多いのですが、「光季」にはそのどちらもないとのこと。「すももの中で、果肉まで黄色というものは非常に珍しく、奇跡のすももです」と語る渡辺さん。珍しい品種は市場で注目を集めたといいます。

それまで、部会内で販売促進事業は行っていましたが、これを機に渡辺デザインラボと連携し、4品種のすもものブランディングに力を入れ、売り出していくことになりました。

工夫→成果

ブランディングの構築と市場への初競り

いよいよ部会内に設置された研究会と渡辺デザインラボとで、ホームページや販促物の作成などに着手しました。「役員はみな年配なので、若手の研修生や女性の意見を取り入れながらブランドデザイン検討会を開きました」と渡辺さん。農作業の合間をぬって会議を重ね、パッケージ資材のサンプルを多数取り寄せたりして、リーフレットのデザインやキャッチフレーズ、パッケージデザインなどを決めていったそうです。

こうして平成27年には、4品種の中で最初に「光李」が初出荷されました。その年の東京・大田市場では、初競りで1kgあたり1000円以上の値がつき、満を持してのデビューは大成功をおさめました。

今後の課題・展望

新たな担い手の育成から地元の観光資源へ

平成25年、大江町に「OSHIN（おしん）の会」という就農研修生受入協議会が発足しました。立ち上げのきっかけは、すもものの需要の高まりがあっても、新品種に切り替えられるような余裕のある生産者が少ないことから。担い手が増えなければ、生産量も見込めません。渡辺さんが主導となって行政と連携し、受け入れ農家の橋渡しをしながら、移住者への就農支援をしています。研修生の数は順調に増え、卒業した研修生も合わせ、すもも生産者は徐々に増えているそうです。また、過去数回開催して好評だったすもも狩りの観光ツアーにも力を入れたいとのこと。「1回のすもも狩りで10品種ほどを食べることができます。すもものには食べる人の好みがあって、固いのがいいという人もいれば、柔らかいのがいいという人も。趣向が一定ではないので、消費者から直に感想を聞くことができる観光ツアーを通して、観光資源が少ない大江町にお客さんを呼べたら嬉しいです」と、町の活性化にも目を向け、今後の展望を語ってくれました。

事業実施体制（助成期間 H25.10〜H27.9）

〈農林漁業者〉
さがえ西村山農業協同組合すもも部会
（すもものの生産、販売）

（連携）↓↑

〈中小企業者〉
渡辺デザインラボ
（ブランディング、販促物制作）

市場でも大好評だった光李

光李4L規格品

事業の今 これから

令和元年12月現在

黄金のすもも「光李」は、その希少性から現在では生産量が足りなくなるまでに需要が高まっていました。その他の品種も徐々に出荷数は増えているとのこと。出荷先は東京の市場へがほとんどですが、毎年9月上旬には一般の方にも手に取っていただける機会として、東京にある山形アンテナショップで即売会を開催しているそうです。

「高齢化もあり生産者は年々減少傾向にありますが、『OSHINの会』では現在も県外からの新規就農者を受け入れ、今までに13名がすももを含む果樹農家として独立しています」と渡辺さん。また、新たに「すものリキュール」という加工商品の開発も進めているそうです。令和2年の販売開始を目指しているそうです。すもものの魅力に、ますます注目が高まります。

会社概要

さがえ西村山農業協同組合すもも部会
（さがえ西村山農業協同組合営農販売部園芸課内）
住　所／〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地75
電　話／0237-86-8185
ホームページ／http://yamagata-sumomo.jp

JAさがえ西村山すもも部会
部会長　渡辺誠一さん